

※公募の詳細については、公募機関(AMED)の web サイトで必ず確認してください。(H29.11.07 現在)

【平成 30 年度 新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業】

【公募締切・事業紹介リンク先】

平成 30 年度「新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業」

https://www.amed.go.jp/koubo/01/06/0106B_00190.html

研究推進課学術調整係への提出期限:

平成 29 年 11 月 29 日(水)

AMED の期限は 12 月 6 日(水)正午(厳守)

○提出方法: e-Rad(機関承認要)

※希望者には、先端科学・イノベーション推進機構(O-FSI)による提案書アドバイス等を行いますので、**期限内に余裕をもって**O-FSI へご相談ください。E-mail: fsojimu@adm.kanazawa-u.ac.jp

【公募課題概要】※枝番は特に優先的に採択される研究開発課題

(公募課題番号) 公募課題名	研究費 (年間)	研究 期間	採択 件数	概要
1. 新型インフルエンザ等呼吸器感染症に係る開発研究				
1-(1) H7N9 等、新型インフルエンザ対策に資する研究	10,000 千円～ 15,000 千円 程度	最長 3 年 H30～ H32 年 度	0～2 課題 程度	[目標] H7N9 鳥インフルエンザ等、新型インフルエンザの発生に備え、H7N9 等の性状解析・病原性解析、リスク評価、ワクチン開発やその評価、ならびに医療現場等での対応検討等、国内患者発生時における対策強化に向けた研究を推進する。 [求められる成果]① H7N9 鳥インフルエンザ等、新型インフルエンザの性状解析・病原性解析、リスク評価 ②H7N9 鳥インフルエンザ等、新型インフルエンザのワクチン開発の基盤整備 ③医療現場等での対応検討など、国内流行時における対策強化に向けた知見の集積
1-(2) 細胞培養インフルエンザワクチンに関する研究	10,000 千円～ 18,000 千円 程度	最長 3 年 H30～ H32 年 度	0～2 課題 程度	[目標] 細胞培養インフルエンザワクチン開発に寄与する科学的データを集積し、国のインフルエンザ対策に資する研究を推進する。 [求められる成果] ① 細胞培養インフルエンザワクチンの抗原性維持、収量改善に向けたワクチン製造株の作製基盤の確立②細胞培養インフルエンザワクチンの HA 抗原量測定法の改善③細胞培養インフルエンザワクチンのヒトにおける血清学的解析等、安全性及び有効性の評価に関する臨床研究の実施
1-(3) ウイルス性重症呼吸器感染症にかかる診断・治療法の研究	10,000 千円～ 20,000 千円 程度	最長 3 年 H30～ H32 年 度	0～2 課題 程度	[目標]ヒトにおいて重篤な症状を引き起こすウイルス性呼吸器感染症について、国内への侵入及び感染拡大を防ぐために、感染者の早期発見を確実にを行うための診断法及び治療法の開発・確立に向けた研究を実施する。 [求められる成果] ①感染者の早期発見を確実にを行うための既存検査技術の標準化及び改良、並びに新規診断法の開発 ②ECMO 等の既存技術を用いた重症呼吸器感染症に対する治療法の確立 ③ウイルス性重症呼吸器感染症に対する新規治療薬の開発
2. HTLV-1 対策に資する開発研究				
2-(1) 抗 HTLV-1 ヒト免疫グロブリンによる HTLV-1 感染・発症予防法の開発に関する研究	5,000 千円～ 10,000 千円 程度	最長 3 年 H30～ H32 年 度	0～2 課題 程度	[目標] HTLV-1 感染及び発症を予防する抗 HTLV-1 ヒト免疫グロブリン製剤開発及び上記課題克服に向けた研究を推進する。 [求められる成果] ①ヒト臨床応用を目指した HTLV-1 ヒト免疫グロブリン製剤の開発 ②HTLV-1 ヒト免疫グロブリン製剤の安全性・有効性の検討 ③HTLV-1 母子感染制御に関する検討 ④HTLV-1 感染予防または HTLV-1 キャリアの発症予防に向けた HTLV-1 ヒト免疫グロブリン製剤の供給とニーズに関する情報収集
3. 薬剤耐性菌対策に資する開発研究				
3-(1) 薬剤耐性菌のサーベイランス強化及び薬剤耐性菌の総合的な対策に資する研究	10,000 千円～ 34,000 千円 程度	最長 3 年 H30～ H32 年 度	0～2 課題 程度	[目標]国内外での薬剤耐性菌の検出・感染状況の把握及び収集・解析、また医療現場での薬剤耐性菌の出現を迅速に検出可能な技術の開発を通じ、薬剤耐性菌の拡散・蔓延防止対策に資する研究開発を推進する。さらに将来的な新規抗菌薬開発促進・加速のための、抗菌薬開発コスト削減・開発 期間短縮や臨床試

				<p>験の負担軽減を可能とする有効な手法の開発を推進する。</p> <p>[求められる成果] ① 国内外の薬剤耐性菌の感染状況・動向把握のための既存のサーベイランス強化に資する技術開発(精度管理のための手法開発など)及びその海外展開 ② 薬剤耐性菌サーベイランスシステム等を活用した、医療現場における感染対策に資する手法の開発 ③ アジアを中心とした国内外の薬剤耐性菌の収集及びその実態解明、また耐性獲得機構の解明等、特性解析 ④ 他の菌種へ伝達拡散する危険性が高く、早期に院内感染対策が必要となる薬剤耐性菌に対する迅速検出法や解析法の開発 ⑤ 薬剤耐性菌に対する新薬等の用法・用量の推定を可能とする in vitro シミュレーションシステムの開発、非臨床データから臨床データを予測可能とする科学的根拠の集積を基にした臨床予測モデルの開発及びその有用性の検討・検証</p>
3-(2) 薬剤耐性淋菌感染症の対策に資する研究	5,000 千円～ 10,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標]、薬剤耐性淋菌感染症の対策に資する検査法や治療法の開発を目指す。</p> <p>[求められる成果] ① セフトリアキソン耐性株を含む耐性菌収集システムの構築ならびに利活用、及び本システムを利用した検査ツールの開発 ② 検査法・治療法の開発において産官学で利用可能な菌株パネルの作成 ③ 薬剤耐性遺伝子解析による淋菌の耐性獲得機構の解明、薬剤耐性化予測手法の開発 ④ 新規治療戦略の構築に向けた既存抗菌薬の評価</p>
4. 結核対策に資する開発研究				
4-(1) 結核対策に資する総合的研究	10,000 千円～ 24,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標]結核菌のゲノム情報等を 活用した分子疫学的解析、病原体サーベイランス及び新規診断法の開発など結核対策に資する総合的研究を推進する。</p> <p>[求められる成果] ① 潜在性結核の潜伏・発病メカニズムの解明及び潜在性結核の早期発見に向けた診断法や発症リスク判定方法の開発 ② 多剤耐性結核を含む結核の迅速診断法の開発 ③ 結核菌ゲノムデータベースの整備・強化及びその利活用法の開発(薬剤ターゲット部位の特定や接触者調査等) ④ 結核菌ゲノム情報を利用した国内外の感染動態及び結核伝播経路の解明 ⑤ 結核菌の病原性評価法の開発及び発病に関わる宿主要因の解明</p>
5. ハンセン病対策に資する開発研究				
5-(1) ハンセン病対策等に資する総合的な研究	5,000 千円～ 12,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標]ハンセン病等に対する基盤研究や新規予防・診断・治療法の開発等ハンセン病を含む疾病対策に資する総合的な研究、及びハンセン病制圧を目指した国内外の診断・治療ネットワーク体制の構築等、国際貢献に資する研究を推進する。</p> <p>[求められる成果] ① ハンセン病等の新規治療法開発に資する発症機序、感染経路、薬剤耐性機構等の解明 ② ハンセン病と臨床的に類似した疾患とを鑑別するための新たな診断法の開発 ③ 重篤な後遺症を残すらい反応のメカニズム解明及びその予防法の開発 ④ ハンセン病に対する国民への啓発活動及び医療従事者の育成 ⑤ ハンセン病等の予防・診断・治療に向けた、国内外のネットワーク体制の構築</p>
6. 下痢原性細菌感染症に関する開発研究				
6-(1) 腸管感染症起因菌のサーベイランス手法及び病原性評価表の開発に向けた研究	10,000 千円～ 34,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標] 腸管出血性大腸菌及びカンピロバクター属細菌等、腸管感染症起因菌ゲノムデータベースの拡充、ならびに収集したゲノム情報に基づいたサーベイランス手法及び病原性評価法の開発に資する研究を推進する。</p> <p>[求められる成果] ① 腸管出血性大腸菌及びカンピロバクター属細菌等、腸管感染症起因菌ゲノムデータベースの拡充 ② ヒト重症例由来の腸管出血性大腸菌及びカンピロバクター属細菌の高病原性株の系統解析 ③ 腸管出血性大腸菌及びカンピロバクター属細菌の病原性評価法の開発 ④ 腸管出血性大腸菌ゲノム情報に基づくサーベイランス手法の開発 ⑤ カンピロバクター属細菌</p>

				菌ゲノム情報に基づく新規型別手法の開発
7. ワクチン対策に資する開発研究				
7-(1) ワクチンで予防可能な疾病のサーベイランス及びワクチン効果の評価に関する研究	10,000 千円～ 26,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標] VPD の制御及び疾病負荷の評価、並びに各種ワクチンの有効性、安全性、免疫原性、累積接種率など予防接種行政及び国民への情報還元に必要な知見を得ることを目標とする。</p> <p>[求められる成果] ① VPD の制御及び疾病負荷の評価 ② 各種ワクチンの有効性、安全性、免疫原性等の評価 ③ 小児の累積予防接種率調査 ④ 任意接種ワクチンに対する定期接種に向けた検討のための情報収集 ⑤ 予防接種導入により期待される効果、安全性、医療経済学的な評価(持続性、費用対効果等) ⑥ 感染症対策に必要な新規ワクチン開発に関する検討に向けた情報収集</p>
8. 節足動物媒介性感染症に関する開発研究				
8-(1) 感染症を媒介する節足動物に関する研究	5,000 千円～ 18,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標] デング熱、重症熱性血小板減少症(SFTS)などの感染症のベクターとなる節足動物に着目し、感染の成立とベクターとの関係の解明や将来的なベクターコントロールによる感染症制圧を 目指した、節足動物の生態学的調査、標本整理、効果的なベクターコントロール手法の確立、感染実態の把握など、基礎研究から対策研究までの総合的な研究を実施する。</p> <p>[求められる成果] ① 感染症媒介メカニズムの解明を目指した蚊、ダニ等節足動物に対する疫学調査・実態解明 ② 効果的なベクターコントロールに向けたマニュアル作成、防除法の開発 ③ 節足動物の殺虫剤抵抗性獲得機構の解明</p>
8-(2) ダニ媒介性細菌感染症の総合的な対策に向けた研究	5,000 千円～ 18,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標] 新たなダニ媒介性の細菌感染症について、病原細菌の性状解明や診断・治療法等の開発に向けた総合的な研究を推進する</p> <p>[求められる成果] ① ダニ媒介性病原細菌の性状・病態等の解明 ② ダニ媒介性病原細菌の病原体ゲノム情報の収集、病原体バンクの基盤構築 ③ サーベイランス強化に資するダニ媒介性細菌感染症の診断法の開発・改良 ④ ダニ媒介性細菌感染症の治療法の検討に資する情報収集</p>
9. 動物由来感染症に関する開発研究				
9-(1) 愛玩動物が関与する動物由来感染症に対する検査体制構築に向けた研究	5,000 千円～ 10,000 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標] 愛玩動物が関与する動物由来感染症について、動物病院、医療機関、獣医系大学、保健所、地方衛生研究所、国立研究機関等の関係機関で構成する検査・診断ネットワークの構築を目指すとともに、動物病院等における獣医療・愛玩動物関係者等への感染予防対策に資する研究を推進する。</p> <p>[求められる成果] ① ヒト及び愛玩動物への動物由来感染症の感染実態の調査及びヒトに対するリスク分析 ② 愛玩動物に由来する動物由来感染症に関する動物での診断ガイドラインの作成 ③ ヒト及び愛玩動物における動物由来感染症の迅速検査法の開発 ④ 動物由来感染症に関する国内の検査・診断ネットワーク体制構築の検討に向けた情報収集</p>
10. バイオリスク管理に関する開発				
10-(1) バイオリスク管理における評価・検証手法等に関する研究開発	7,500 千円 程度	最長 3年 H30～ H32年 度	0～2 課題 程度	<p>[目標] 我が国における病原体等の取り扱いに関しては、平成19年4月、感染症法の一部改正により、病原体等に係る定義及び分類、分類ごとの要件等を定める病原体等の規制に関する制度が創設され、施行されている。施行後10年あまりを経て、病原体等の管理を取り巻く環境の変化に加え、海外での規制等の改正やWHO ガイドラインの見直し、また病原体等管理に係る技術(施設・設備に係る構造・制御、くん蒸・消毒 技術、個人防護用資材など)の進捗などが認められている。このことから、本研究開発課題では、これらの技術的進捗を踏まえたバイオリスク管理における評価・検証手法などに資する研究、WHO 及び諸外国での病原体等規制に係る情報収集及び分析、病原体等管理に関する技術に関する情報収集及び分析を行うことにより、我が国における病原体等を用いた感染症研究を推進するために一層の安全対策の向上に資する基盤的研究を行う。</p> <p>[求められる成果] ① 封じ込め施設における施設・設備に係る評価・検証手法の開発 ② 大型の実験動物を取り扱う設備に係る評</p>

				価・検証手法の開発 ③ 封じ込め施設ガス滅菌法に係る評価・検証手法の開発 ④ 封じ込め施設内での个人防护に関する評価・検証手法の開発 ⑤ 病原体等の保管・使用等に係る管理手法に関する評価・検証手法の開発 ⑥ 開発された評価・手法の実施に係るガイドラインの作成 ⑦ 同ガイドライン施行に資する研修資料の作成
11. マスギャザリングにおける感染症の検査体制強化に資する開発研究				
11. マスギャザリングにおける感染症の検査体制強化に資する開発研究	7,500 千円 程度	最長 3年 H30~ H32年 度	0~2 課題 程度	[目標]、マスギャザリングにおいて対応を強化すべき感染症を中心に、地方衛生研究所等の研究機関で利用可能な検査法・輸送技術・輸送システムの研究開発を行い、マスギャザリングにおける感染症対策に資する包括的な検査体制の構築強化を目指す。 [求められる成果] ① 地方衛生研究所等の研究機関で利用可能な検査法の開発 ② 国内の医療機関、保健所、地方衛生研究所等で連携して利用可能な輸送技術及び検体輸送システムの開発 ③ 開発した検査法・輸送技術・輸送システムの連携機関における有用性の検証 ④ 国内医療機関、保健所、地方衛生研究所等の連携による全国的な病原体輸送・検査網の基盤整備と実地検証
12. 感染症対策の強化に必要な基盤技術の創出、診断・治療・予防法の開発研究				
12-(1) 感染症対策の強化に必要な基盤技術の創出、診断・治療・予防法の開発研究	5,000 千円~ 10,000 千円 程度	最長 3年 H30~ H32年 度	0~3 課題 程度	[目標] 現時点で実施する必要性の高い感染症(エイズ、肝炎を除く)に関連する研究を実施し、総合的な 感染症対策の強化に資する基盤技術の創出又は革新的な感染症の診断・治療・予防等に関する 方法の開発を行う。 [求められる成果](以下のいずれかを達成する) ① 総合的な感染症対策の強化に資する基盤技術の創出 ② 総合的な感染症対策の強化に資する新規診断法の開発 ③ 総合的な感染症対策の強化に資する新規治療法の開発 ④ 総合的な感染症対策の強化に資する新規予防法の開発
12-(2) 【若手育成枠】感染症対策の強化に必要な基盤技術の創出、診断・治療・予防法の開発研究	5,000 千円 程度	最長 3年 H30~ H32年 度	2~4 課題 程度	[目標][求められる成果] 同上 特記事項: 本公募研究開発課題の研究開発代表者は平成 30 年 4 月 1 日の時点において満 40 歳未満(昭和 53 年 4 月 2 日以降に生まれた者)の研究者が対象です。なお、産前・産後休業等離職期間のあった方は、その日数を応募資格の制限日に加算することができる場合がありますのでお問い合わせください。